

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
大原キャリアビジネス&ペット専門学校		昭和59年12月22日	赤星 哲志		〒910-0854 福井県福井市御幸1-5-20 (電話) 0776-21-0001		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人大原学園		昭和54年4月1日	安部 辰志		〒123-1234 東京都千代田区西神田1-2-10 (電話) 03-3291-7981		
目的	本校は、教育基本法および学校教育法に従い、商業実務関係の専門課程および文化・教養関係の専門課程を設置し、社会に貢献し得る人材を育成することを目的とする。						
分野	課程名		学科名		専門士	高度専門士	
商業実務	商業実務関係専門課程		総合ビジネス科		平成27年文部科学省告示第13号	-	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間		1840	1600	270	210	210
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数		総教員数
40人		10人		2人	4人		6人
学期制度	■1学期:4月1日～ 8月31日 ■2学期:9月1日～12月31日 ■3学期:1月1日～ 3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 優、良、可、不可の4種をもって表す。 ※学則第9条参照		
長期休み	■学年始:4月1日～ ■夏季:7月下旬～8月下旬 ■冬季:12月下旬～1月上旬 ■春季:2月下旬～3月31日			卒業・進級条件	学則第19条を基礎として従い行っている。		
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 卒業・進級条件及び欠席となっている事情を考慮して個別指導を行っている。			課外活動	■課外活動の種類 運動系クラブ活動 ■サークル活動: 有		
就職等の状況	■主な就職先、業界等 ホテル業界 旅行業界 旅客業 ■就職率 ^{※1} : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 100 % ■その他 (平成 28 年度卒業者に関する 平成29年3月31日 時点の情報)			主な資格・検定等	総合旅行業務取扱管理者試験 ホテル実務技能認定試験 国内旅行業務取扱管理者試験 観光英語 等		
中途退学の現状	■中途退学者 0名 平成28年4月1日時点におし 在学者 10名 平成29年3月31日時点におし 在学者 10名 ■中途退学の主な理由 0 ■中退防止のための取組 中途退学の兆しとして、欠席・遅刻・早退の増加、授業への集中力の欠如及び検定試験への受験意欲の低下などに現れる。よって、以下の内容を防止策として取り組んでいる。 (1)欠席等の防止						
ホームページ	http://www.o-hara.ac.jp/hokuriku/senmon/						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ①卒業生の主な就業先である旅行業界企業・ホテル業界企業と連携して教育課程の編成を行うことにより、専門的かつ実践的な知識・技術を修得した即戦力となる人材を育成する。
- ②文化教養分野における学修の中心となる運輸関連知識、旅行関連知識、宿泊関連知識、情報パソコンスキル等の教育内容に関して、教育課程編成委員会を通じて常に業界の最新の情報を反映させる。
- ③上記①、②により編成された授業科目、内容が実践習得されているかどうか、教育課程編成委員による実践的視点で評価を受け、課題を浮き彫りにする事で、教育の質の確保ならびに更なる教育の質向上に活用する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

①位置づけについて

教務部(課)の上位に教育課程編成委員会を設置し、企業等からの提言を参考にして本校の教育課程編成について協議策定するための機関として位置づける。また、委員会での協議結果は大原学園教育本部に提出し、大原学園全校の教育課程編成にも活用していく。

②意思決定の過程について

- (ア)学科の目的に基づき予め学内において現状の課題等を明確にした上で、教育課程編成委員会に提言を求める。
- (イ)委員会では企業等からの意見を参考に次年度以降の教育課程編成に関する改善案を策定する。
- (ウ)委員会での協議内容は学園教育本部に提出し、学園全校の教育課程編成にも活用していく。
- (エ)教育課程編成委員に教育現場の責任者である校長、就職本部長、教務部長が参加することで、企業等の委員から提示された課題、改善提案を速やかに次年度以降の教育課程(授業科目、内容、手法)の編成に反映させることができる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年3月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
赤星 哲志	大原キャリアビジネス&ペット専門学校 校長		
小倉 豪円	大原キャリアビジネス&ペット専門学校 副校長		
光照 良浩	大原キャリアビジネス&ペット専門学校 教務部長		
広瀬 顕信	大原キャリアビジネス&ペット専門学校 教務課長		
酒井 和博	さかい動物病院 院長	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③
飯岡 正明	株式会社日本旅行ツーリスト 営業課長	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

第1回 平成28年5月13日 15:30～17:00
第2回 平成28年7月15日 15:30～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

次年度の教育課程編成にあたり、特に職業実践演習などの授業科目では委員会における企業等からの助言を踏まえて、より実践的な教育内容にブラッシュアップを図っていく。具体的には、アジア諸国からのインバウンドに対応する為、10月より中国語と韓国語の語学授業を取り入れている。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ①文化教養分野における実習・演習は、業界企業等との連携の下、学内で行なわれる学習科目が多いことを考慮して、実習・演習の組立を行う。
- ②企業等との連携による実習・演習を通じて学生のより実践的な知識・思考・技術の修得と、社会人としての意識改革を実現する。
- ③学外における実習・演習の授業内容、手法に関して具体的な助言を仰ぎ、学生の知識・技術の修得状況に対して実践で活かせるレベルか否かを企業等の実務の視点から評価を仰ぐ。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

ツアープランニング I、ホテル実習の授業運営に関して企業等と協定書を締結、打合せを行い、下記について講義内容の質向上のために連携している。

(3) 具体的な連携の例		
科目名	科目概要	連携企業等
ツアープランニングⅠ	学生自ら国内もしくは海外旅行プランを企画し、さらに必要な各種手配も行う総合的な演習を実施。	杉本 千秋((株)福井旅行)
ホテル実習	客室の種類、レセプション業務、フロント業務、インフォメーション業務、レストラン業務などホテルマンの業務理解を通じて、ホテル業務の全貌を学ぶ。	ホテルフジタ福井

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 専門的かつ実践的な知識・技能を有し即戦力となる人材を育成するためには、教員一人ひとりが常に実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけなければならない。そのために下記のとおり教員研修の環境を整える。

- ①教育課程編成委員会に参画する企業等から講師を派遣した実践的な知識・指導スキル研修
- ②大学教授等専門分野に特化した講師として招いた研修会の実施
- ③学内に設置される附帯教育講座を利用した自己啓発

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

商業実務分野の指導に必要な専門知識向上を目的として学内において下記の教員研修会を開催した。詳細は別紙参照のこと。

株式会社JTB総合研究所により、実務における具体的な題材をテーマにして、業界理解を中心とした教員研修会の開催・・・平成28年12月

②指導力の修得・向上のための研修等

イオンリテール株式会社により、実務における具体的な題材をテーマにして、マーケティングを中心とした教員研修会の開催・・・平成28年7月

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

次年度も今年度同様の研修を計画している。詳細は別紙参照のこと。

②指導力の修得・向上のための研修等

イオンリテール株式会社により、実務における具体的な題材をテーマにして、マーケティングを中心とした教員研修会の開催・・・7月

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

当学園の教育理念は、学生に対して資格取得教育、実務教育を施し、人格の陶冶を行いもって有為な産業人を育成することである。この教育理念に基づき実践的な教育が実現出来ているか、また、その教育を実現するために必要な環境が整っているかについて、学校関係者評価委員を設置して下記に示す評価項目から評価する。評価結果については、学校長を通じて即座に次年度の学校運営に反映させる。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	①理念・目的・育成人物像は定められているか。
(2) 学校運営	①運営方針は定められているか。
(3) 教育活動	①各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人
(4) 学修成果	①就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図ら
(5) 学生支援	①就職に対する体制は整備されているか。
(6) 教育環境	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されて
(7) 学生の受入れ募集	①学生募集活動は、適正に行なわれているか。
(8) 財務	①中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか。
(9) 法令等の遵守	①法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。
(10) 社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行なっているか。
(11) 国際交流	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

今年度は下記について特にご意見をいただいた。

- ①就職教育の充実
- ②資格取得率の向上と実践的な知識習得
- ③保護者との連携強化
- ④学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
飯岡 正明	株式会社日本旅行ツーマン 営業課長	平成28年4月1日～平成30年3月31日	企業等委員
酒井 和博	さかい動物病院 院長	平成28年4月1日～平成30年3月31日	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://www.o-hara.ac.jp/sbout/hyoka/>

公表時期:平成29年9月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

①実践的な職業教育における成果を広く周知することにより、入学希望者の適切な学習機会選択に資すること。そのために、学校関係者評価結果も含めて教育活動の状況や課題など学校全体に関する情報を分かりやすく示すこと。

②また、上記①により企業等との連携による教育活動改善を活発にし、社会全体の信頼に繋げていくこと。

③情報の公表を通じて学校の教育の質の確保と向上を図ることを目的とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	①学校の概要 ②目標・方針・特色 ③所在地、連絡先
(2)各学科等の教育	①カリキュラム、時間割、目指す資格 ②検定、資格取得・検定試験合
(3)教職員	教員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	各学科の実習紹介
(5)様々な教育活動・教育環境	①学校行事 ②クラブ活動
(6)学生の生活支援	学習や学校生活に対する不安解消(先輩の声)
(7)学生納付金・修学支援	①学生納付金 ②奨学金、学費減免等の紹介
(8)学校の財務	学園の財務状況公開
(9)学校評価	学校関係者評価結果
(10)国際連携の状況	留学生の募集
(11)その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL: <http://www.o-hara.ac.jp>

授業科目等の概要

(商業実務関係専門課程 総合ビジネス学科) 平成28年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ビジネス実務Ⅰ	観光英語3級合格を目指す。海外の空港、ホテル、レストラン等で必要となる単語力の習得をベースに国内外の文化、地理、景勝地等の知識を学ぶ。	1 ②	90	○			○	○			
○			ビジネス実務Ⅱ	観光英検の授業を補完するものとして、海外旅行に関連する英文購読や英文リスニングを教材に海外旅行での実践的英語力を磨く。	2 ②	45	○			○	○			
○			就職実務Ⅰ	業界で要求されるTOEIC550点以上のスコアを目標に、総合的な英語力を磨くと共に、TOEICに特化した独特の解法テクニックのマスターを目指す。	2 ②	90	○			○	○			
○			就職実務Ⅱ	日常会話において英語でコミュニケーションを楽しみながら話せる力を養う事を目標に学習を行う。	1 ①	90	○			○	○			
○			国内旅行Ⅰ	英語でのコミュニケーション力を伸長させるため、リスニング力、スピーチ力、質疑応答力の向上を目指し学習する。	2 ①	90	○			○	○			
○			国内旅行Ⅱ	海外旅行に関連する英文購読や英文リスニングを題材に海外での実践的英語力を磨く。	2 ②	45	○			○	○			
○			総合旅行Ⅰ	フロント、ドアマン、ベルマン、クローク、コンシェルジュ、ハウスキーピングなど職種特有のサービスのあり方を研究し、サービス接遇能力の向上を図る。	2 ①	30	○			○	○			
○			総合旅行Ⅱ	客室の種類、レセプション業務、フロント業務、インフォメーション業務、レストラン業務などホテルマンの業務理解を通じて、ホテル業務の全貌を学ぶ。	1 ③	60	○			○	○			
○			英検総合対策Ⅰ	英検準2級の取得を目標に、基礎となる単語・熟語を学び、実践的な英語構文を学習する。	1 通	120	○			○	○			
○			英検総合対策Ⅱ	英検2級の取得を目標に、基礎となる単語・熟語を学び、実践的な英語構文を学習する。	2 ②	60	○			○	○			
○			観光英検Ⅰ	観光英語3級合格を目指す。海外の空港、ホテル、レストラン等で必要となる単語力の習得をベースに国内外の文化、地理、景勝地等の知識を学ぶ。	1 ②	90	○			○	○			

○		観光英検Ⅱ	観光英検の授業を補完するものとして、海外旅行に関連する英文購読や英文リスニングを教材に海外旅行での実践的英語力を磨く。	2 ②	45	○		○	○	○									
○		TOEIC対策	業界で要求されるTOEIC550点以上のスコアを目標に、総合的な英語力を磨くと共に、TOEICに特化した独特の解法テクニックのマスターを目指す。	2 ②	90	○		○	○	○									
○		英会話Ⅰ	日常会話において英語でコミュニケーションを楽しみながら話せる力を養う事を目標に学習を行う。	1 ①	90	○		○	○	○									
○		英会話Ⅱ	英語でのコミュニケーション力を伸長させるため、リスニング力、スピーチ力、質疑応答力の向上を目指し学習する。	2 ①	90	○		○	○	○									
○		リスニング	海外旅行に関連する英文購読や英文リスニングを題材に海外での実践的英語力を磨く。	2 ②	45	○		○	○	○									
○		ツアープランニングⅠ	学生自ら国内もしくは海外旅行プランを企画し、さらに必要な各種手配も行う総合的な演習を実施。	1 ②	30			△	○	○	○	○	○	○	○				○
○		ツアープランニングⅡ	関連業務として、航空業界やホテル業界についても実習を交えて学習し、プロとして働く醍醐味と厳しさを理解する。	2 ③	60			△	○	○	○	○	○	○	○				
○		旅行地理	旅行地理検定対策を通じ、国内、国外旅行の添乗業務や旅行会社での窓口業務に必要な地理的な知識を学ぶ。	2 ②	120	○		○	○	○									
○		旅行Airline業界研究	エアポートビジネス、発券業務、出入国業務、添乗業務などを学び、航空業界と旅行業界に関する理解を深める。	1 ③	60	○		○	○	○									
○		サービス接遇	フロント、ドアマン、ベルマン、クローク、コンシェルジュ、ハウスキーピングなど職種特有のサービスのあり方を研究し、サービス接遇能力の向上を図る。	2 ①	30	○		○	○	○									
○		ホスピタリティ	サービスにおける中心的な考え方であるホスピタリティの概念を理解するためのロールプレイを実施する。	1 ②	10	○		○	○	○									
○		ホテル実務	客室の種類、レセプション業務、フロント業務、インフォメーション業務、レストラン業務などホテルマンの業務理解を通じて、ホテル業務の全貌を学ぶ。	1 ③	60	○		○	○	○									
○		ホテル実習	客室の種類、レセプション業務、フロント業務、インフォメーション業務、レストラン業務などホテルマンの業務理解を通じて、ホテル業務の全貌を学ぶ。	1 ③	60			○	○	○	○	○	○	○	○				○
合計				24 科目		1,840単位時間(単位)													

<p>(試 験)</p> <p>1. 学業成績は、授業科目ごとに行う試験によって、これを定める。ただし、授業科目によっては、その他の方法で査定することができる。</p> <p>2. 試験には定期試験、追試験および再試験等がある。追試験はやむを得ない事故等により定期試験を受けなかった者に対して行い、再試験は受験の結果、不合格となった者のためにこれを行う。</p> <p>3. 追試験および再試験は、本校において必要と認めたとときに限り、これを行う。</p> <p>(学業成績)</p> <p>学業成績の判定は優、良、可、不可の4種をもってこれを表し、優は80点以上、良は60点以上、可は50点以上、不可は49点以下とし、優、良、可を合格、不可は不合格とする。</p> <p>(卒業)</p> <p>本校に在学し、下記に定める授業時数以上履修し、かつ、その該当する所定の授業科目について各学年末における試験に合格して卒業資格を得た者には、卒業証書を授与する。</p> <p>(1) 総合ビジネス科 1, 840時間</p>	1学年の学期区分	3期
	1学期の授業期間	15週

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。